

奈良女子大学 大阪外国語大学
音楽部 グリークラブ
JOINT CONCERT in OSAKA



1980年9月18日(木) PM 6:30 森ノ宮ピロティホール



奈良女子大学音楽部

クラブ紹介

こんばんわ!!今まさに幕の上がらんとする緊張の一瞬に貴方の頭に何が浮かびますか?もし、お暇でしたら幕の内側で緊張している私達の透視など試みては?……突然、貴方も深奥に眠る超能力の神秘に目覚めるかも……!?私達の練習場のピアノは、レとラの音が出ない上に半音程低目……こうなると音とりなどは正に超能力が必要なのです♡いつも陽気な音楽好きの仲間が集まる部室には、楽しい笑い声と明るい笑顔が絶えません。その暖かな雰囲気の中に最近グッと真剣さが加わり、練習にも部員の意欲と熱気が感じられる様になりました。このファイトの根源は今宵のグリーメンとの出逢いでしょうか。女声合唱の持ち味を生かし、そして彼のグリーメンとの響き^か和すハーモニーに感動を見出した私達の、内からの輝きをごらん下さい。貴方の胸に、私達の想いを込めた心の暖かなぬくもりが伝わりますように

プログラム

エール交換

I 「月と良寛」 (奈良女子大)

1. 手 毬
2. 忘れん坊
3. 月のうさぎ
4. 夕やけ
5. 月かげ

作詞 宮地 廓 慧
作曲 大 中 恩
指揮 木 嶋 一 穂
伴奏 北 島 道 子
アルト独唱 畚野明佐子

II 「黙 示」 (大阪外大)

作詩：木 原 孝 一
作曲：清 水 脩
指揮：石 原 守

III 「赤い鳥」の世界 (奈良女子大)

1. 忘れていた朝
2. 河
3. 赤い花 白い花
4. 翼をください
5. 竹田の子守唄
6. 雨
7. 紙 風 船
8. 美しい星

指揮 木 嶋 一 穂
伴奏 北 島 道 子

奈良女子高等師範学校校歌

(貞明皇后)

春日の山に 出づる日の

くもらぬひかり あふきつつ

かさせや こころの 花さくら

つめよ まことのをしへ草

みなもと清き 佐保川の

みきはのやなき うちへて

ふるきをたつね

あたらしき道にすすめや ひとすちに

大阪外国語大学学生歌

Gaigo will shine tonight

Gaigo will shine !

Gaigo will shine tonight

all down the line !

Gaigo will shine tonight

Don't they look fine !

When the sun goes down

and the moon comes up

Gaigo will shine,

Gaigo will shine !

Varsity

Varsity ! Varsity !

Osaka Gaikokugo Daigaku !

Praise to thee we sing,

Praise to thee our alma mater

U. Rah Rah !

Osaka Gaidai !

御挨拶

何年か前、「ワタシ、作る人。ボク、食べる人。」という、あるインスタント食品のCMが、女性団体から槍玉に挙げられたことがあります。あの時、これが何故女性差別だとして大袈裟に取沙汰されるのかと疑問を抱いたのは私だけだったのでしょうか。私は大らかで楽しいCMだと思ったのですが。ナンセンスならナンセンスで笑い飛ばせば良いものを、杓子定規に男尊女卑の表現としか解釈することの出来なかったインテリおばさんたちの、想像力の乏しさこそ嘆かわしく思います。“作る”女の子も“食べる”男の子も、どちらも生き生きとしていました。今宵、男たちで、女たちで、また男たちと女たちで、生き生きと音楽を作って行こうと思います。これに笑顔で応えて頂けるならば、私たちにとってこれ以上の喜びは有りません。最後になりましたが、賛助出演をして下さる方々を始め、御協力して頂いた各方面の方々に厚く御礼申し上げます。

大阪外大グリークラブ部長 村川健一

メッセージ

今日も、若い人たちの潑刺とした美しい歌声の中で、大学キャンパスの一日が暮れていく。

混沌とした世界の中にあっても、私たちの生活は、自由なリズムに乗って常に明るく健康でありたい。音楽を愛好し、自己の魂と音楽との出会いを通じて人間の自由を求めようとする学生のグループが、そのような願いをこめて日常の活動をつづけています。

音楽部は昭和21年(1946年)の秋から毎年独自の発表音楽会を持ちつづけ、学外での定期演奏会ばかりでなく、他大学との交流による合同演奏会などにも毎年それなりの業績を示してきました。

今回機会を得て大阪外国語大学とのジョイント・コンサートを持つことができることを、関係者として感謝いたします。

本日賛助出演をして下さる皆様ともどもに今後末永く仲の良いお付き合いをおねがいたします。

奈良女子大学音楽部顧問 地主忠夫

ジョイント・コンサートの開催、おめでとうございます。大きな期待をかけて聴かせていただきます。

ところで、今年は第二次世界大戦で日本が敗れて35年になります。日中全面戦争となった1937年に私は中学に入ったのですが、開戦間もない7月21日には、当時の政府は文部省に外局として教学局をおき、軍国主義の強調にあたるせ、アジア征服、世界制覇の思想が国民につき込まれました。現在また当時の悪夢を思い起こさせるような状況が内外に現出しています。

戦争を知らない若き男女学生諸君が一堂に会し、歴史に学び、歌声によせて、「平和の旗」をふり、「愛の言葉」を叫び、「文化の光」を輝やかされんことを希望します。

大阪外国語大学グリークラブ顧問 山口慶四郎

I. 女声合唱組曲「月と良寛」

この組曲は、1960年に京都女子大学女声合唱団の委嘱により作られたもので、大中恩氏にとっては初めての女声合唱組曲でした。それぞれに独自のストーリーを持った5つの曲が、互いにつながり合い、曲想的にも非常に良く構成されています。

第2曲目の「忘れん坊」では、和尚さんと子供達の掛け合いがユーモラスに歌われています。子供達にいじめられる良寛さまに、私達は親しみを感じてやみません。

第3曲「月のうさぎ」は、良く知られた物語をもとにしたものです。かわいそうなおじいさんのために身を投げたうさぎの優しい心を、たっぷりと歌いあげたいと思います。

4. 夕やけ

良寛さま
良寛さま
夕焼です
そよ風です
おなかがすいたら
茶茶あがれ

5. 月かげ

こどもらの
かえったそのあとで

良寛さまは
月をみあげて言いました
「こどものころは
月のよう
ほとけのころも
月のよう
でも
ほとけごろの
月かげは
ときどき
慈悲にくもる月」



II. 清水脩作品集より「黙示」

演奏者あるいは聴衆へのメッセージ
—— 渴したる者に一滴の苦い水を ——

ヒロシマ・ナガサキを語るのに言葉はあまりにも虚しい。

しかし——「黙示」 自己の内の何かを表わすのに、単に黙することしかできない——これはいったいどういうことなのだ？その事実に向面する時、我々はわずかながら何ものかを代弁せずにはいられない。ヒロシマ・ナガサキの悲劇は今も確実に存在している、と。

そして我々は繰返し問いかける（あるいはそれは果てしない自問でもある）「これでいいのか？」と。

安易なる日常に埋没して何ものをも見ない者よ。目を外へ向けてはいるが現実の表層しか見えない者よ。現実の内に横たわる深淵にすべて目を閉ざす者よ。何ものをも真の姿を見ることを怖れる者よ。「これでいいのか？」

また、真の声が聞こえざる者よ。耳を塞いでそれを聞くのを怖れる者よ。ただ漫然と声を聞く者よ。そして、おそらくは渴したる心を持ち来りて音楽に何ものかを求めんとする者よ。あるいは自らが渴していることさえ知らずにいる幸福な者よ。さらに、いやしくも何ものかを表現する声を挙げんとする者よ。

彼らに（我々に）必要なのは、一時的な爽快感を伴うコップ一杯の甘い水だろうか、それとも、未熟な代弁者によってもたらされたものではあるが、いつまでも後味の残る一滴の苦い水なのだろうか？

III. 「赤い鳥」の世界

さわやかなハーモニー、流れるような詞、そしてその中に織り込まれた人間への限りない愛情とファンタジー——これが「赤い鳥」の世界ではないでしょうか。

ほら、耳慣れたメロディーが聞こえてきます。そっと口ずさんでみたくなりませんか。じっと坐っているのがもどかしいような、そんな気持ちになってくるでしょう。そうです。それが彼らの歌なのです。

今宵は、皆様にこれらの曲の中に込められた彼らのメッセージを、改めて受け取っていただきたいと思います。

河 新井套子 作詞

河よ私を流しておくれ
河よ満つることのない海に
お前は流してくれる
罪もけがれも
お前は洗ってくれるだろう
生きることのせつなさを

お前は聞いてくれる
この世のはかなさを
お前は知っているだろう
海は神の門なるを

美しい星

誰でも ひとつの命を持って
生きているのさ 星の上で
地球に地球に 生まれて知った
生きることの楽しさ
夜と朝とをくりかえし 人々を乗せ
いつの日も回るよ この星は

愛と夢とをくりかえし 今日も明日も
いつの日も回るよ この星は

山上路夫 作詞



IV. 「世界の歌声」

西洋音楽は、その育まれた土壌故ハーモニーにすることは比較的容易なのだが、東洋音楽は、その持つ独特の音階・こぶしが有り、また特有のメリスマティックな雰囲気を持つ為、その点非常に難しい。その上、その種の楽譜も無い為、編曲を依頼して編曲者を悩ませ、難産の末やっとこのステージに載せることが出来た。これは合唱に於ける新しい試みだろうと思っている。

1. Siboney: レクオーナが作曲したラテンムードの名曲。キューバ地方のリズムに乗って切ない愛の歌が繰り広げられる。「シボネー、君が恋しい、君を想って絶え入るこの身、シボネー、君の唇に蜜がその甘さを置いた……」男性諸君、こんな恋をしてみたくはないだろうか。ドミンゴが歌えば様になるのだが、我々だと“失恋”の歌になるかも……。

2. Annie Laurie: スコットランド民謡。スコットランド人の気風をよく表わした曲で、我々が歌うと「嘆き節」になるところが“ミソ”!

3. Bengawan Solo: インドネシア民謡。ジャワ島を貫流する「ソロ川」の偉大さを讃えた歌。ソロ川と言えば、あの「ジャワ猿人」が発見された所だが、60万年も前の話なのに、今何故かグリーで息を吹き返した。ピアノを叩き毀し、練習をさぼり、猛威を振う!

4. Mara Bebus: ペルシア民謡。アラビア地方の音楽が合唱にされたことはかつてないであろう。それは独特のこぶしと音階が有るからだだが、今回は思い切ってそれらを排除した。果たしてアラビア音楽に聞こえるかどうか。ちなみに「マラ・ベブース」とは「我に接吻せよ」の意味。女性からこんなことを言われたら、どんなにいいだろう!

5. Home On The Range: アメリカ民謡。郷愁を誘うメロディーは誰が歌っても快い。グリーが歌っても!?

6. Калинка: この一曲でロシアそのものを表わすと言ってもよい程彼らの気質を良く表わした曲。たわいもない詩に音楽が躍動する! 「松の木よ、騒ぐのはよしてくれ、やきもちをやかなくてもいいだろう……僕を好きになっておくれよ……」。

V. 混声合唱のためのカンタータ「土の歌」

大木惇夫氏の詩を読んでいると、人間への痛烈な批判が先ず読者の心を揺さぶる。大木氏と言えば、あの組曲「雨」を思い出してしまうが、ここではあのような叙情的な雰囲気は微塵も無く、雄大な自然とそこに生きる人間の姿を高らかに謳いあげている。土と共に暮し、土から糧を得てきた人間たちが、互いの唾み合いから自ら墓穴を掘る。死の灰が世界を覆う。では、人間はどこに安住の地を求めれば良いのか。地下であろうか。それならば、もぐらと同じではないか。人間はもぐらなのか。ついに自然が修羅と化し、人間に襲いかかる。稲妻が、嵐が、洪水が、地震が、次々と人間を飲み込む。もう、人間の姿はどこにもない。そして、そこには再び美しい自然が広がる。正に『ノアの方船』の世界である。しかし、そこには素晴らしい自然の摂理が働いているのだ。

そこはかとなく、詩から受ける印象を書き綴ったが、下の詩の一部を掲載しておくので読んで頂きたい。

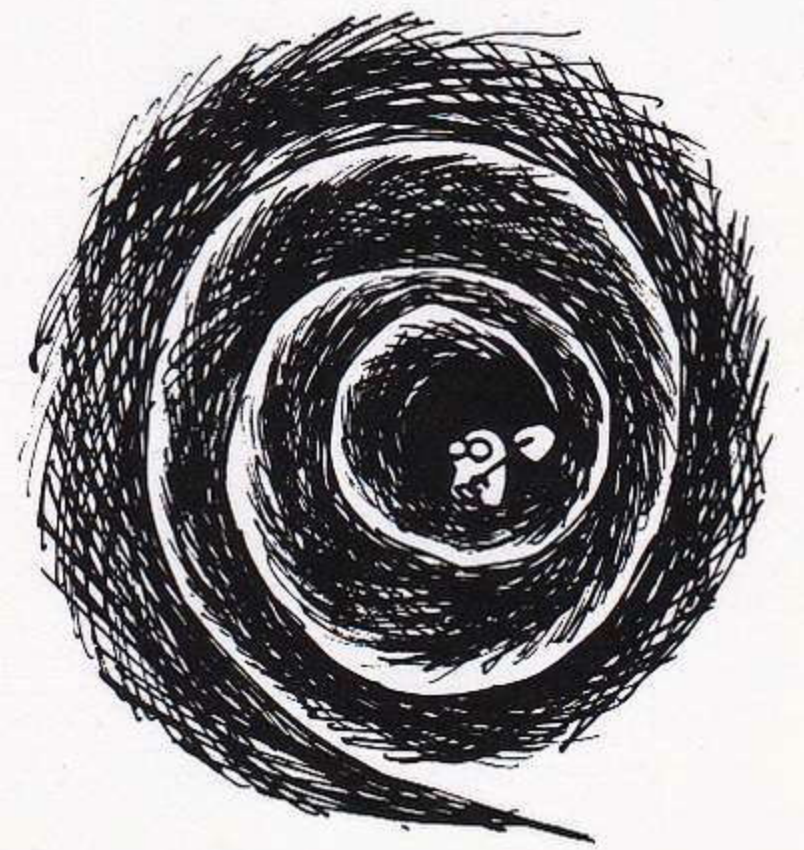
第四楽章 もぐらもち

もぐら もぐら
土にもぐって
日の目も見ない
もぐら もぐら
それでもおまえは
しあわせだとさ
もぐらもぐら

地の中の
穴の暮らしが
やすらかだとさ
もぐら もぐら

火の槍に怯える者は
死の灰を怖れる者は
もぐらの真似をするそう

なるほどな
土から出て来て
土にと帰る
もぐら もぐら
どのみち
それが人間か
わっはっは
わっはっは
もぐら もぐら
笑ってやれよ
人間を
もぐら もぐら



<プロフィール>

司会：中島奈美

同志社大学文学部美学芸術学専攻3回生。ミュージカル劇団伽羅倶梨所属。来年4月に旗上げ公演があり、その準備にハリキッテイマス。学生時代を通して演劇を愛してきた彼女の、ステージに注ぐひたむきさがいつの日にかきっと大きく花開きます様に……。情熱を秘め静かに輝く彼女の表情を、動きを、そして声に御注目下さい！

<編集後記>

初めての仕事で何も分からず、まごつきましたが、何とかプログラムらしきものが完成し、ホッと一息ついていきます。(但し、内容は不十分な点ばかりで促証できかねますが……)。

このプログラム作成にあたり、御寄稿下さいました先生方、広告主の方々、殊に最後まで暖かく御指導下さいましたアサヒ印刷所の方々に心から御礼申し上げます。本当に有難うございました。

もう何も思い残すことはありません。今宵は力一杯歌います。外大グリーンメンと、奈良女子大音楽部の美女達との息の合ったプレイを薦と御覧下さい。 Buona fortuna !!

担当マネージャー 萬好、松田

<今後の予定>

12月9日(火)：奈良女子大学音楽部第16回定期演奏会(於 奈良県文化会館)

12月12日(金)：大阪外国語大学グリークラブ第24回定期演奏会(於 森ノ宮青少年会館文化ホール)



大阪外国語大学グリークラブ

クラブ紹介

「半音違う？男がそんな小さいこと言っとってどうする！大きい声で歌え、大きい声で」と言っていた人は既にOBとなってしまいましたが、その伝統を受け継ぎ、音程よりも音量に生甲斐を見出す上級生も少なくありません。また箕面へ移転する前に外大があった上六に想いを馳せ、練習の度に酒に浸るという「音」よりも「酒」の猛者もいます。さらにそれに輪をかけて指揮者のキタムラというのが「音」よりも「形」に固執する男で、服装・動作・舞台照明・楽器・ナレーションetcで勝負するという悪癖を持ちます。カウボーイ姿でウエスタン音楽を指揮し、失笑（と本人は解釈していないようですが）を買ったのも、そんなに昔の話ではありません。こうした上級生たちを横目で睨みながら、ひたすら「音」にこだわる下級生たち。ああ、今日も外語グリーの葛藤は続くのです。

プログラム



休

憩



IV 「世界の歌声」

(大阪外大)

1. Siboney (キューバ)
2. Annie Laurie (スコットランド)
3. Bengawan Solo (インドネシア)
4. Mara Bebus (ペルシア)
5. Home On The Range (アメリカ)
6. Калинка (ロシア)

指揮：北村照夫

V 「土の歌」

(合同演奏)

1. 農夫と土
2. 祖国の土
3. 死の灰
4. もぐらもち
5. 天地の怒り
6. 地上の祈り
7. 大地讃頌

作詩：大木 惇 夫

作曲：佐 藤 眞

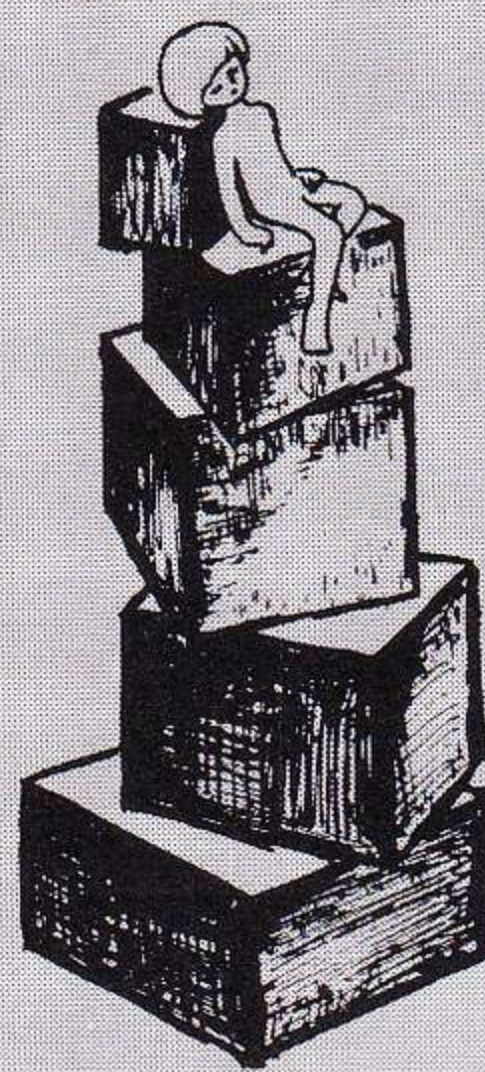
指揮：北村照夫

伴奏：田中博子、中津孝司

賛助：大阪女子大学合唱団

大阪女子学園短期大学音楽部

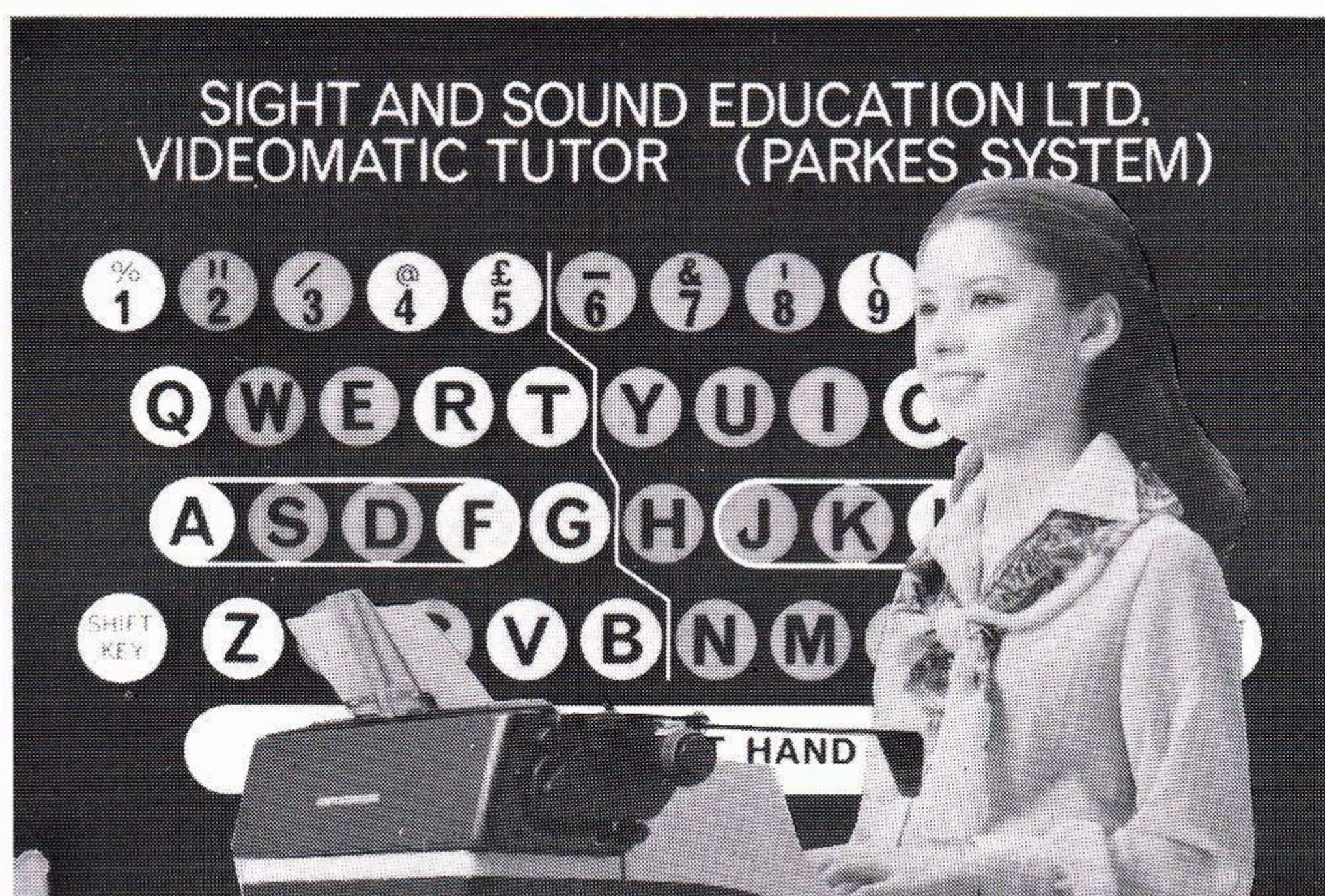
大阪外国語大学女声コーラス部



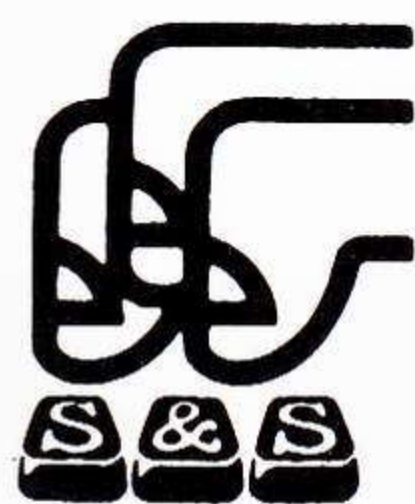
13
時
間
で
英
文
タ
イ
プ
が
打
て
ま
す

なぜでしょう

英文科の方、留学される方はもちろん、将来貿易関係・コンピュータ関係などに進まれる方——。いま、英文タイプの技術を生かす分野がどんどん広がっています。サイトアンドサウンドは英国からやって来た画期的な視聴覚システム。従来3～6カ月かかったタイプ訓練のイメージをぬり変えました。光と音の楽しいプログラム学習を1日1時間。わずか13時間で、知らず知らずの中に、あなたの指が英文タイプを覚えてしまいます。語学力・年齢は無関係。自習もまったく不要です。



●お好きな時間をお選びください。13:00～19:15まで1日6回の講習があります。毎日おつづけください。(土・日・祭は休み) ●コースは毎日始まります。●公開説明会にお気軽にお越しください。毎週土曜日10:30と13:30の2回。



お問い合わせ
資料請求は

PHONE (06) 315-8021

サイトアンドサウンド 大阪センター

〒530 大阪市北区太融寺町8番8号 日進ビル3F